

## 大学生の科学技術情報入手と探索の実態

松本 侑子

近年、医学情報や科学技術情報などの専門情報に対する一般の人々の関心が高まりつつある。例えば、2010年の「小惑星探査機『はやぶさ』の帰還」というトピックや2011年3月に発生した福島第一原子力発電所の事故においては、ニュースや新聞記事でこれらのトピックが頻繁に取り上げられただけでなく、自ら情報探索を行い、専門情報を利用している人が数多く存在した。このように、これまで専門家が職務上必要とし、彼らの間のみで流通させてきた各種専門情報を一般の人々が日常生活において必要とし始めていることがうかがえる。さらに近年では、人々が専門情報を必要とし、実際に探す傾向にあることは各種調査からも明らかになっている。ただし、科学技術情報を中心とした専門情報について、本当にそれらの情報に触れる機会は増加しているのか、実際に探索を行っている人はどの程度存在するのか、ということについて十分な調査が行われているわけではない。そこで本研究では、情報検索という行動に慣れ親しんでいると思われる筑波大学情報学群知識情報・図書館学類の学生を対象として、彼らの専門情報入手・探索の実態を明らかにすることを目的として調査を行った。

調査方法として、インターネット上での質問紙調査を採用した。知識情報・図書館学類の学生446名を対象とし、日常生活の中で科学技術に関わる情報を目にする頻度及びメディア、科学技術情報を探索する頻度と探索のきっかけとなるメディア及び探索に利用するメディア、科学技術に関係しない情報を探索する頻度及び利用するメディアについて尋ねた。調査票は回答者ごとに設定した回答用URLを電子メールで配布し、重複回答及び対象者以外からの回答を防止した。回答期間は2011年11月9日から2011年11月16日24時までの8日間であり、有効回答率は42.6%であった。

調査の結果、日常生活の中で科学技術情報を目にしている人が多く、さらに自ら科学技術情報探索を行っている人が約半数を占めているということが明らかになった。日常的に情報探索を行い、科学技術情報であっても興味・関心を持てば抵抗なく情報探索を行っていると考えられる。また、科学技術情報を目にする際にも探索を行うきっかけとしても、情報源としてインターネットが大きな影響力を持っていた。それと同時に、科学技術情報を目にするメディアや探索のきっかけとなるメディアとしてテレビや新聞を挙げている人も数多く存在し、インターネットだけでなくテレビや新聞も依然として影響力を持っていることが明らかになった。また、情報探索を行う際には、Wikipediaや一般向けのサイトや記事だけでなく、専門機関等の公式サイトや学術論文などを利用している人もある程度存在し、専門家向けの情報源であっても利用している人が存在するということが明らかになった。

(指導教員 松林麻実子)